



飯田 怜さん
Iida Rei

(仁田子区)

いいだ れい / 長距離陸上競技者。甲佐中陸上部からルーテル学院高、4月から昨年陸上部(女子駅伝チーム)が創部された岩谷産業(株)へ進む。

鍛えたスピードを武器に 輝く未来へ走り出せ

「どう練習し、どれだけ努力してきたかによって、結果が出たときの喜びも違います。それを味わうと、また次もがんばろうと思えるところが、陸上競技の魅力です」と話すのは、飯田怜さん(仁田子区)。

アテネ五輪マラソン金メダリストの野口みずき選手をはじめ、多くのランナーを育てた名将・廣瀬永和監督が率いる岩谷産業(株)に、今春入社。すでに2月から、同社陸上部の練習に参加している。

スピードを武器に昨年の県高校総体1500㍎では4位入賞、南九州大会では決勝進出。全国高校駅伝では4区を快走し、「今まで経験した大会の中で、一番盛り上がりが大きく、沿道の声援も途切れませんでした」と振り返る。小さいころから走ることが得意で、小学校ではバスケットをしていたが、6年生のときに町ロードレース大会で優

勝したことをきっかけに、中学校では陸上部の門をたたく。自ら進んで競技に取り組み、「1年生のとき、先輩を見てフォームを改善しました」という飯田さんは、腰高のきれいなフォームが持ち味。3年生のときには県中体連800㍎で3位入賞。ルーテル学院高に進学すると寮に入り、仲間と切磋琢磨して練習に打ち込み、3年生のときには主将として、同校初の全国高校駅伝出場へチームを牽引した。

「実業団では、練習のペースなどについて、細かく指示はされません。体調や次の大会に合わせて、自分で考えを持って練習をしなければならなかったが、今までと違いました」と練習参加を振り返る。「走る距離や時間がのび、先輩たちはペースも速く、刺激を受けました。元々長い距離は得意ではありませんでしたが、毎日20㍎以上走ったので、長い距離も走れるのではないかと思います」と自信をのぞかせる飯田さん。「日本選手権に出場したいです」と未来に向かって走り出す。

広報 こうさ

2018年(平成30年) 4月号
通巻585号